参加と平等
県推協新聞

第400号
2013年10月 28日
毎月　1回　28日発行
郵便振替口座／00580－9－2534・障県協
購読料１部　250円
購読料(1年)3,000円
（会員の購読料は会費に含む）

★ 10･6 貧困から子どもと障がい者を守る ★

# 県民シンポジウム 開催される！

## 人にやさしい社会をめざして

松本市の浅間温泉文化センターにおいて十月六日、「貧困から子どもと障がい者を守る県民シンポジウム」が開催されました。主催は福祉医療給付制度の改善を進める会(会長・和田浩さん)を中心とした実行委員会です。

シンポジウムのねらいについて、実行委員長の和田浩さん（健和会病院副院長・小児科医）は、「貧困問題は、どこか遠くの話しではなく、私たちの目の前で起きています。しかし、なかなか見えないのが現実です。これを見えるようにすること、何が起きているのか現実を知り合うことが第一の目的です」「次に、具体的に私たちが行っている支援の取組みを交流し、広めることが大切です」「私達だけでは支援に限界があります。国・県や市町村に求められることを明らかにする必要があります」「すべてを総合的にとらえて、私たちに何ができるかを考えあいたい」と呼びかけました。

当会・松丸道男代表による主催者挨拶の後、村上晃弁護士（生活底上げ実現長野県連絡会代表）による基調講演「子どもの貧困の現状と国の施策の問題点」が行われました。

### 基調講演要旨

**【なぜ子どもの貧困が問題なのか】**

○子ども自身が人権主体。どのような環境の下に生まれようとも、『生きる権利』『発達し成長する権利』『学ぶ権利』などを持つが、『貧困』はこれを阻害する。

○子どもの貧困を放置すると、『貧困の連鎖』が生じる。

具体的な問題では、十分な食事ができない、病院へ行けず健康を害する、就学に必要な費用

発行　長野県障害者運動推進協議会
発行所　〒三八一－〇〇三四
長野市高田中村二七六－八
長野県労連会館一階
電話〇二六（二六四）五二五六
FAX〇二六（二六四）五二五六
発行人　松丸　道男

紙面の案内

◆特集◆　貧困から子どもと障害者をまもる「県民シンポジウム」報告
◆Ｐ１～Ｐ５
◆Ｐ５～Ｐ６　「第４０回国際福祉機器展　Ｈ．Ｃ．Ｒ.２０１３」見学報告
◆Ｐ８；お知らせコーナー　（このお知らせコーナーへの情報をお願い致します。）

が用意できない、進学をあきらめざるを得ない、虐待の背景になるなど

**【子どもの貧困率】**

○我が国の相対的貧困率、十六％（二〇一〇年）、ＯＥＣＤ諸国の中で四番目に高い。

○子どもの貧困率が年々上昇している。十二・七％（九五年）、一五・七％（〇九年）

○所得再分配しても貧困率は僅かしか減少しない。日本の福祉施策の不十分さをあらわしている。

○就学援助は、二〇一一年過去最高の一五六万人。

**【子どもの貧困率が上がっている原因】**

○親の収入の減少、非正規雇用やパートなど不安定就労の増加など

○一人親世帯の増加　二〇一一年、母子世帯約一二三万世帯、父子世帯約二二万世帯。一九八三年に比べ、母子世帯約七〇％、父子世帯三三％増。

○児童扶養手当の減額、生活保護の改悪など、社会保障の削減が追い打ちをかける。

**【一人親世帯の実情】**

○母子世帯約一二三万世帯のうち約七六万世帯、父子世帯約二二万世帯のうち九万世帯が母子又は父子のみの世帯。

○母子世帯の約八〇％、父子世帯の約九〇％が働いている。海外の一人親家庭の就業率（ＯＥＣＤ平均約七一％）より高い。

○就労母子家庭のうち、正規雇用は三九％。就労父子家庭の正規雇用は約六七％

○就労母子家庭の母親の平均収入は約二二三万円、そのうち就労収入は約一八一万円。就労父子家庭の父親は同じくそれぞれ三八〇万円・三六〇万円。

○母子家庭の稼働所得は他の「児童のいる世帯」の三〇％の水準しかない。

○児童扶養手当受給者は、一〇八万人（二〇一三年三月末）

○生活保護を受給している母子世帯及び父子世帯はともに約一割にすぎない

◇一人親家庭の相対貧困率は五〇・八％、ＯＥＣＤ諸国の中で、ダントツの最悪

**【福祉先進国では】**

○北欧やフランス、ドイツなどでは、教育費や医療費はかからない。また、住宅手当など家賃補助がある。

○さらに、北欧やフランスなどでは、家族関係社会支出の割合が大きく、所得再分配後の貧困率を大きく減少させている。

○フランスなどでは、家族手当は、貧困対策という面もあるが、広く家族政策の一環であり、出生率の上昇に貢献している。出生率、フランス二・〇、日本一・四

**【必要とする対策】**

○子育て支援　○教育費の無償化　○医療の無償化　○家族関係支出の増加　○安価な公営住宅の増設、家賃補助　○消費税の逆進性対策　○子どものいる世帯に対する社会保険料負担への配慮など

**【子どもの貧困にかかわる直近の問題】**

●子どもの貧困対策法、生活保護基準の引き下げ、子ども・子育て新システムほか

政府の「子育て支援」の目的は、子どもや保護者のため、福祉の充実ではなく、経済成長のため、大企業のために、女性を働けるようにする仕組みづくり。保育も子どものためではなく、保育水準を切り下げ、民営化により企業の儲けを確保する施策…

## ■シンポジウム

シンポジウムでは、初めに子どもを持つお母さん二人の文章を代読しました。うち一人は、「文章化しないでほしい」とのご希望ですので紹介はできません。続いて、当会を代表して、原孝雄さんが発言しました。三番目に、医師の立場から和田浩代表が発言しました。四番目は、ケースワーカーの小山奈緒さん、五番目に小中学校事務職員の古澤絵美さん、最後に反貧困セーフティネットアルプス世話人の児玉典子さんから提起がありました。

フロアーからも、難病患者、精神障がい当事者などから、切実な現状報告や質問が出されました。

当日は、当事者・医療・教育関係者、議員・一般市民など二三二名が参加し、実行委員長の和田浩さんが提起したねらい通りのシンポジウムとなりました。

参加者一同、力をあわせ、誰もが人間らしく生き成長・発達できる社会の創造をめざして前進していくことを確かめ合い閉会となりました。

# シンポジウムの主な発言①

コーディネータ
和田　浩氏

## コーディネーター和田浩　氏

### ●はじめに

貧困問題はどこか遠くの話ではなく、僕らの目の前で起きている。極身近な出来事とくに、子どもとか障害者とか弱い立場、特に子ども・障がい者などにある人々に大きな影響があるが、なかなか「見えない」のが現実です。今回のシンポジウムを開催するに当たってできるだけ見えるようにしたい。

シンポジストには具体的な事例を語ってもらって、プライバシーに配慮して少し変更してお話しする部分もある。

そうした実態の中で私たちに何ができるか、具体的な取り組みもしてもらう。私たちがボランティアでやっていても解決しない問題もあり、国や県、市町村に改善を求めることも必要だ。そうしたことを通じて私たちが何をしていくべきかを考えたい。

○当事者の母親（文書参加代読）

当事者からということで経済的困難を抱えた家庭のお母さんからの文章の代読という形で二つの発言があった。

①三人の子どもを抱える母子家庭で、生活費が足りない中での医療費の問題、高校進学を断念しかけた苦悩などを発言がされた。

②家庭内暴力から逃れて子どもと二人暮らしのお母さん、母子家庭のための高等技術取得のための支援制度があるが、過去のヘルパーの取得のための職業訓練を受けたためその制度を受けられないということがあった。母子家庭の他の知人は役所でそのことを事前に教えてもらったため支援制度が受けられるなど役所の対応に不満。ＦＴＡにもとづく外国人のためのヘルパー援助支援はあるが、わたしにはそれもないのは残念で日本国内にも目を向けて欲しい。市役所で生活保護をすすめられるが都会と違い車がないと仕事にも生活にも影響がある。働けない体ではないので生活保護をつかわず一生懸命働いているが報われなさを感じる。仕事がら腰痛があるがよっぽどのことがなければ医療機関には行けない。

### ●おわりの発言

いろいろな生の声が出されて本当に良かったと思う。ちごちごの会の方々の発言のように本当に大変な中でがんばっている当事者の声がなかなかみえない。そうしたことを知れば応援したいと思う方にも、なかなか状況が知られていない。そうしたことを含めて交流できたことはよかった。もしかすると、それって貧困問題ではなく、障害児・者問題ではないのと思った方もいるかもしれないが、それが貧困問題のみえない落とし穴だと思う。

障害者問題だけど、こうした状況がつづくとどんどん経済的に困難になっていく。いろいろなものが複合して問題が複雑になっていると思う。精神障害、発達障害もそうだと思う。

先ほどアスペルガだと発言してくれました。とても勇気のある発言だったとおもう。そうした方の声は表に出にくい。外国人の問題も、その背景には貧困がある。いろいろなことが重なって困難をたくさんかかえて困っている。しかもその困っている人は発言をしない。いってどうなると思っていなかったり、実際にいったが行政の窓口でぴシャット断られがっかりしたり、そうした人の勇気をくじくことは世間にたくさんある。

でもそうした人を支えて勇気付けて一緒にがんばっていこうという人もこんなにたくさんいます。息を長くして取り組んでいかなければならないことばかりだが、取り組んでいきたい。

今日は、いろいろな問題が出されましたが、医療に関して言うと窓口無料の問題は、このことで大変な思いをしている方が、僕が思っていた以上にたくさんいるということを今日痛感しました。

また、生活保護の問題、教育費がこんなに負担になっているということは行政の方のやり方、基本的には国が変わらないとなかなか変わらないが、でも県や市町村の努力で変わる部分もたぶんあると思う。議員さんには是非がんばっていただきたいし、私たちもぞうした声をおおいにあげていきたい。本日の参加者は200名プラスアルファ、大勢集まっていただき誠いありがとうございました。

**●原　孝雄　氏**

私は、現在透析を受けています。仕事は、重度障害児の担当をしている養護教諭です。

透析患者の立場からですが、毎月二万円を窓口で支払っています。いずれ返ってくるお金ですが、戻るなら払う必要がないのではないかと思います。また、六・七年前なら、透析食は無料でしたが今では、自己負担となり毎月一万円かかっています。透析患者にとっては治療食でもあり、重要であるが、これが有料なのです。

透析時間は、長くやればやるほど効率は良いが、仕事をもっていれば十分な時間がとれません。私は、公務員なのでまだ良いが、一般企業に勤務されている方は非常に苦慮されています。

障害児に関しては、集金の未納が増えています。特に、保護者が障害をもっているとか、母子家庭であるとか、生活困難を抱えている場合が多い。重度長期障害児は知的障害と肢体不自由を併せ持った患者で、排泄、食事、移動などすべてにおいて解除が必要な子どもだ。その中には医療的ケアを必要な子と必要ない子がいてその中でも重いお子さんは学校に通うことが負担なので家庭で訪問教育を受けている子もいる。医療的ケアのない子どもの医療費はどれくらいか調べたが、毎月の受診、定期的なリハビリなどで月三万円、薬代などは別に支払っている。医療的ケアの必要な子は受診、薬代、訪問看護などで毎月七万五千円くらいかかっている。これは入院がない場合だ。入院が加わると月十五万円、症状が悪化して3週間入院すれば四十五万くらいお金がかかる。これを一旦窓口で払わなければならない。

夜間人工呼吸器を使用しているが症状で小児慢性特定疾患の認定が受けられないためかなり負担が増える。MRI検査や血液検査も一万円くらいかかる、冠婚葬祭等で預けなければいけないときに、預ける場所がなく、病院に預けることになるが、それも入院扱いになり一泊三万円くらいになる。

いずれ返ってくるお金ならいいじゃないかというが、重度のお子さんはいつ入院になるか分からない。入院が長期化すると四十五万円といったようなお金をストックしなければならないということで、苦慮されている。こうしたことも考えて福祉医療費の窓口無料化はぜひともすすめて欲しい。

## ●フロア発言①

こんにちは、紬野と申します。「貧困から子どもと障害者を守るシンポジウム」という事で発言させていただきます。

息子の翔太は二十四時間呼吸器を付けて生活しています。

外来や訪問看護科、入院費などで毎月自転車操業であるのは事実です。毎月毎月どうやって支払うか、入院するどうやって何処から入院費を捻り出すかで主人と話し合います。ずっと側にいる私は働くことが出来ませんし、呼吸器患者は生きていくだけきたいです。でもお金が必要なんです。

翔太が生まれたのは私の実家の方（東京）の病院でしたが、窓口無料でした。それが住んでる長野に帰った途端急に苦しくなるのです。先進国では窓口無料はゼロが普通と聞きます。「戻ってくるからいい」のではなく一時的に負担するのも金額が多いととても苦しい事をわかって頂きたく窓口無料化は、すぐにでも進めていただきたいです。

貧困といえばお金の事ももちろんそうですが、教育が保障されてなく「環境が貧困」というお話もしたいと思います。

今、息子は松本養護学校に週三回通っています。翔太は学校が大好きです。

学校に通うにあたり呼吸器管理は学校看護師さんはできないので親の私が付き添っています。私が付きそうにも限界があり、他の兄弟の行事や家の用事もあるので週三の付き添いが限度です。本当はもっと学校に通わせてあげたい。

訪問看護師さんが母親の代わりに学校に来れるようになりましたが、医療保険が使えないということです。

翔太は五年ですが、高学年といえば段々母親が疎ましくなり、そこから自立心が芽生えてくるように思います。

長男は二十四時間私がべったり付いていて自立どころではないのです。ある日、翔太がリハビリの先生に「僕のおかあさんは何で学校に付いてくるの？他の子のお母さんみたいに家に帰って欲しい」とこぼしたそうです。

先ずは、学校看護師さんの人数を増やして頂き負担を減らして頂きたいのです。加えて学校看護師さんの呼吸器管理もできるようにしてほしい。

医療の進歩で助かる命が増えたと同時に医療ケアのある子は年々増えています。年々増えれば呼吸器を付けた子など色々な子がいるようになるのは、当たり前です。

福祉も学校もそれに伴い変わって行ってほしいのです。

## ●フロア発言②

寿養護学校に通っている上条です。息子は二十四時間呼吸器を付けています。呼吸器がないと生きていけません。週二日から三日の通学です。下の子が一歳半で一緒に連れ回せず一時保育にあずけていますが、月三万円かかります。入院すると一〇数万円かかります。保育園は市、学校は県とそれぞれの窓口が違って大変。教育の貧困ではスクールバスに乗れないので母の運転で通学しています。学校にいくことで成長しました。もっと通学させたい。

## ●フロア発言③（北沢和雄氏）

精神障害者の交通割引が、長野県のしなの鉄道実施されるようになり、精神障害の利用が進み社会参加の機会が増している。ＪＲも是非、精神障害者も他の、身体・知的障害と同様に運賃割引の対象にしてほしいので、多くの市民のみなさまの後押しをお願いしたい。

# 「第40回国際福祉機器展 H.C.R.2013」に行ってきた。

報告者　；田口　誠
（ひだまりの会　会長）

九月十八日（水）～九月二〇日（金）にかけて、東京都江東区有明にあります東京国際展示場「東京ビッグサイト」東展示ホールに於いて「第四〇回国際福祉機器展　H.C.R.二〇一三」が開催されました。

この福祉機器展は車椅子やリフトなどの移動機器から、ベッド、入浴・トイレ用品、高齢者・障害者向けに工夫された衣類や食品、介護予防機器、介護ロボットまで、あらゆる種類の福祉機器・用具が出展されるアジア最大の福祉機器の展示会で、今年は世界各国より五八五社（国内五二六社、海外五九社）が出展し、開催期間中の来場者は一二万一〇四四人となったそうです。

私が始めて国際福祉機器展に行ったのは今の職に就いた十三年前でした。

まだ福祉機器についてほとんど知らない頃で、この展示会の規模に圧倒されたことを覚えています。

主に大都市で開催される福祉機器展になかなか行くことができないこども達のために、長野県内で展示会を開催したいと思ったのも国際福祉機器展を見た事がきっかけでした。

それ以降は秋の恒例行事として毎年足を運んでいて、今年は最終日の二〇日に見学に行ってきました。

同行したのは「ひだまりの会」の役員仲間である副会長のYさん、事務局のTさんと広報のY子さんの三名です。

ゆりかもめの車内から

インド料理店のテラスから

展示会に行き始めた頃はあらゆる情報を集めようと十時の開場に合わせて出掛け、閉場の時間まで会場内を歩き回っていましたが、最近ではある程度目的を絞って行くようになり、往復の道中もゆっくりと楽しみながら東京見物のつもりで行っています。

この日も午前七時半に出発し、国立府中ＩＣ辺りからお決まりの渋滞を抜けレインボーブリッジを渡ったのが十二時前でした。

そこから真直ぐ会場には行かず、お台場の有料駐車場に車を停めて、まずは腹ごしらえです。

会場内にも飲食店はありますが大変混雑しているため、いつもお台場で昼食を摂ってから行きます。

この日はデックス東京ビーチ内のインド料理レストランでカレーなどのランチバイキングにしました。

お腹を満たしたところでお台場海浜公園駅から「ゆりかもめ」に乗車して会場に向かいます。

無人で運行されているのは知っていましたが、初めて一番前の扉から乗車してみました。

大きな球体が載ったテレビ局とショッピングモールの間を抜けお台場を一回りし最後の右カーブを曲がると正面に目的地が見えてきました。

国際展示場正門駅で「ゆりかもめ」を降り人の流れに乗って逆三角形を繋げた独特な形の建物にあるエントランスに向かいました。

展示会場は例年どおり東展示棟です。

エントランスから左へ進むと入場ゲートがあり、ここでは入場登録を行います。

所定の用紙に住所氏名などを記入して受付に提出すれば登録は完了し、次回からは記入した住所に案内状が送られてきます。

入場ゲートから通路を進むと展示会場の二階に出ます。

二階にはコンビニや飲食店があり、到着した時間は昼食を摂る人で大変混み合っていました。

一階の展示棟は通路を挟んで左右に各三ホールの計六ホールありま

エントランス看板

す。

会期中はホールの間仕切りは撤去されているので二つのホールが左右に分かれた形になります。

私たちはエスカレーターを下り最初に福祉車両の展示ブースに向かいました。

大手自動車メーカーでは日産自動車、スズキ、本田技研工業、マツダ、富士重工業、トヨタ自動車、ダイハツ工業。

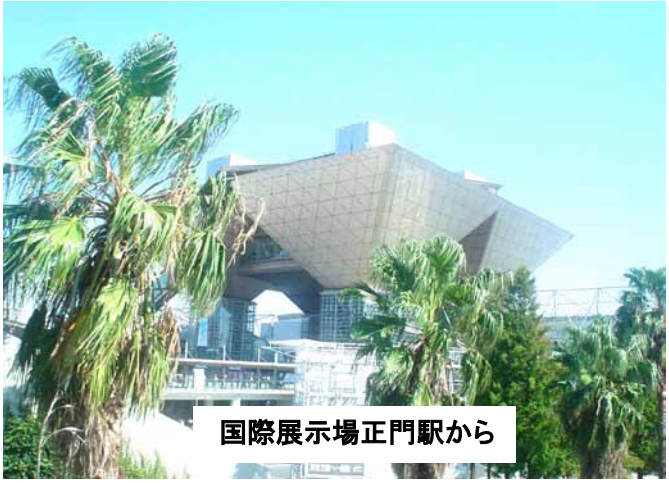
その他に車両改修を行う会社やリフトなどの部品の会社の出展がありました。

福祉車両にも助手席や後席のリフトアップ車、運転補助装置が付いたもの、スロープの付いた車椅子仕様車など色々ありますが、目的としていたのは車椅子仕様車です。

私の娘は人工呼吸器を着けて寝たきりの生活をしています。

車で移動する際、これまではフラットに倒したシートに寝かせていましたが、こどもが大きくなり、抱っこで乗せることが難しくなってきたため車椅子で乗車できる福祉車両を一番に見たかったのです。

以前は車椅子仕様車といっても普通型の一般的な車椅子が一台載せられる程度だったものが、数年の間に二台乗車ができる車種が発売され、ついにはこどもが使っているようなストレッチャー型の車椅子を載せられる車種もでてきました。


国際展示場正門駅から

自動車メーカーでもストレッチャーの見本を用意しているところもあり、大変参考になりました。

自動車のカタログを一通りもらい、次は二組に別れて見学をすることにしました。

私とYさんは主に介護用品や車椅子を、そしてTさんとY子さんは自助具のブースです。

車椅子は国内から海外のメーカーまで出展しています。

何社もありますので目を引いた製品を中心に見て周り、合流する時間になる頃には歩き疲れてグッタリでした。

国際福祉機器展は三日間で十二万人が訪れ、最終日の二〇日は四万人の来場者だったそうです。

展示ホール通路

広大な会場を埋め尽くす人の間を縫って歩くため、すべてのブースを周るには相当な体力が必要となりますが、私たちは前日にミーティングがあり、その後に飲んでしまったため、ここでスタミナ切れとなり会場を後にすることにしました。

来年の第四十一回国際福祉機器展　H.C.R.二〇一四は平成二十六年十月一日（水）～三日（金）にかけて東京ビッグサイトにて開催されます。

詳しい情報はホームページ http://www.hcr.or.jp/index.html でご確認ください。

車椅子仕様車

# お知らせコーナー

## ●●●　医療的ケアの必要な子ども達の教育と生活を考える会　●●●

**秋の学習会＝胃ろうからの半固形食の注入について＝**

日時：１１月２３日（土）１３：３０～１６：００
会場：長野県立こども病院 北棟２階 会議室
内容：「半固形食を注入することについて」
　県立こども病院小児外科部長 **高見澤 滋 先生**
　「半固形食をつくる実際（こども病院の場合）」
　県立こども病院 栄養課長　**牟禮 悌子 先生**
※事前の申込は必要ありません。当日は、病院北側の時間外受付入口からお入りください。

## ●●●　香山リカ先生 講演会＆ラフダイヤモンズ クリスマスライブ　●●●

日時：２０１３年１２月7日（土）１３：１５～ ※受付１２：００～
会場：長野市生涯学習センター（TOIGO）４階 第２・３学習室
内容：１部 **ラフダイヤモンズ・クリスマスゴスペルライブ**
　１３：１５～１３：４５
　２部 **香山リカ先生 講演会**
　「へたりながらも生きるのびる方法」　写真
　１４：００～１５：３０

## ●●●「子ども・障がい者の医療費を窓口無料化を求める要請書」●●●

表記の署名をお願いします。阿部県知事宛です。新聞とは別口のクロネコヤマトのメール便でみなさまに送ります。パンフも同封しましたので、ご覧ください。
目標は３４万筆ですので、同封の封筒にて必ず返送してください。

## ●●●　保険医協会の署名へのご協力を！●●●

「保険で良い歯科医療の実現を求める請願」
署名は窓口無料化の署名パンフと同じ封筒に入っているティッシュに挟んであるハガキにあります。署名後、お手数でも50円切手を貼ってポストへ！

**★★★　防災にかかわる提言を１０月２４日（木）に県へ提出しました。報告は次号で。**
**県への陳情書は１０月中に県へ提出します。★★★**

◎問い合わせ　県推協事務局まで　　TEL/FAX　０２６（２６４）５２５６
E-mail；suishin2007@yahoo.co.jp